

かわすじ 今日談

筑豊総局長

西村 隆幸

直方市の小川恵子さんからお手紙を頂戴した。

小川さんは、直方商工会議所女性の設立に尽力し、かつてはカンボジアでの地雷撤去活動も支援してきた。地域への思いは熱く、直方の再生へ提言してほしいとつづってあった。

株価が2万円を超えて久しいが、地域で好況を実感することはない。少子高齢の人口減少時代に突入し、多くの人は先行きの不安の方が大きいだろう。提言と言っても簡単ではない。

ただ、最近、人づくり教育が大切だと痛感している。その点、興味深い取り組みが飯塚市で進んでいる。

IT教育事業を展開するライフイズテック株式会社が企画する「中高生のためのプログラミ

ング体験会」だ。

九州工業大情報工学部や近畿大産業理工学部が立地した特性を生かし、大学生のインスタグラムが中高生にアプリの制作やゲーム開発を指導する。

今年で3年目。高校生のときに指導を受けた生徒が大学生のインスタグラムになって、今年には中高生を教える。まさにITの人材を育てる好循環が生まれている。

起業の価値観を育もう

取得した実践教室「MILAI S」(ミライス)がある。

子どもたちは、プログラミン

グやデザインなどのデジタル技術の基礎を学びながら、自分のアイデアを形にする経験を積むことで「スタートアップ(起業)の価値観を育むことができる」とい

親しんできた中高生の技術、創造性を伸ばす環境を整え、一人一人が持つ可能性を最大限に引き出そうという。

水野雄介代表は「彼らは感じることの天才です。新しいツールや技術への理解も早く、ちょっとしたきっかけさえあれば、私たち大人の想像をはるかに超えた成長を見せてくれます」と公式サイトのメッセージに寄せ

話していた。

九州工業大情報工学部には、

対話力の不足を指摘されていたことから実践教室を開設した。原田さんは1年時にミライスの立ち上げから参加し、運営スタッフとして深く業務を担ってきた。プログラミング学習の支援環境などを研究テーマに選び、東京大大学院に進んだ。

2020年には、小学校でプログラミング教育が導入される予定だ。子どもたちは、コンピュータにプログラミングする体験を通じて、試行錯誤しながら学んでいく。

どうやって教育効果を高め、学習を深化させるのか。プログラミング教育を専門に学んだ原田さんの講演と学生らとのやりとりは極めて興味深い。

国は地方創生推進交付金を活用した事業で、飯塚市、嘉麻市、桂川町が同社に委託している。大学生が中高生にプログラミングを教えるという取り組みは全国でも例がなく、「もっと胸を張ってアピールしたいんですよ」と、讃井さんは笑いながら話していた。

学生のコミュニケーション能力を高める実践教室「MILAI S」(ミライス)がある。

今年15日午後4時から、同大OBでソニー・グローバルエデュケーションに勤務する原田悠我さんが講演する。テーマはまさに「対話的な学びとプログラミング教育」だ。

同大卒業生は、技術はあるが

対話力の不足を指摘されていたことから実践教室を開設した。原田さんは1年時にミライスの立ち上げから参加し、運営スタッフとして深く業務を担ってきた。プログラミング学習の支援環境などを研究テーマに選び、東京大大学院に進んだ。

2020年には、小学校でプログラミング教育が導入される予定だ。子どもたちは、コンピュータにプログラミングする体験を通じて、試行錯誤しながら学んでいく。

どうやって教育効果を高め、学習を深化させるのか。プログラミング教育を専門に学んだ原田さんの講演と学生らとのやりとりは極めて興味深い。